

ウクライナ、紛争激化から2年 あなたの力でできたこと

国境なき医師団 活動・財務報告

2023年2月～2024年2月



はじめに

ウクライナでの紛争が激化してから2024年2月で2年。2024年1月下旬現在も、激しい戦闘と砲撃により、370万人が国内避難民となり、630万人が難民として国を離れています。¹

この間、国境なき医師団（MSF）はウクライナおよび近隣諸国で活動を続けてきました。主に2023年、ウクライナでは、東部・南部では医療と心のケアを、中部では理学療法を中心にその他のニーズにも対応。そして、一部の活動については終了、または現地のパートナー団体やNGOなどへの引き継ぎを進めています。

これらの活動は、活動に賛同してくださる個人および法人の皆さまのご支援なしでは行うことはできませんでした。全ての支援者の皆さまへ、心より感謝を申し上げます。

1 国連難民高等弁務官事務所

表紙写真：砲撃で負傷した若い女性の首から破片を取り除く手術を行う MSF の外科医=2023 年 6 月

© Linda Nyholm/MSF

発行：2024 年 2 月

2014年から続く紛争——MSFのこれまでの活動

MSFは1999年からウクライナで、HIV／エイズ、結核、C型肝炎の治療を中心に活動を行ってきた。

2014年からウクライナ東部では紛争が続いており、戦闘地域に近い小さな村に住む人びとにとて、医療へのアクセスは困難な状態が続いていた。そのような中、MSFは2014年から2019年にかけて、移動診療の運営、医療従事者へのピアサポート、患者に心のケアを行うための研修などを通じて、紛争の影響を受けている人びとを支援してきた。2020年にはミコライウで3年間のC型肝炎プロジェクトを終了し、現地保健当局に移譲した。

2020年と2021年、MSFはジトーミル州とドネツク州において新型コロナウイルス感染症の流行への対応に当たり、個人用防護具、迅速診断検査、酸素濃縮器を医療施設に寄贈。また、心理的負担の大きい医療従事者や、新型コロナの患者に対して心のケアを提供した。ドネツク州では移動診療を行い、軽度から中等度の症状の患者に自宅にて治療を行った。

2022年、紛争激化後のMSFの活動

2022年2月24日、ロシア軍がウクライナ各地を攻撃し、激しい戦争に発展した。MSFはウクライナ東部で実施していたHIV／エイズや結核などの治療プロジェクトを中断し、緊急援助活動に切り替えた。

2022年の対応について詳しくは▼

<https://www.msf.or.jp/news/special/ukraine-crisis/report2022.html>

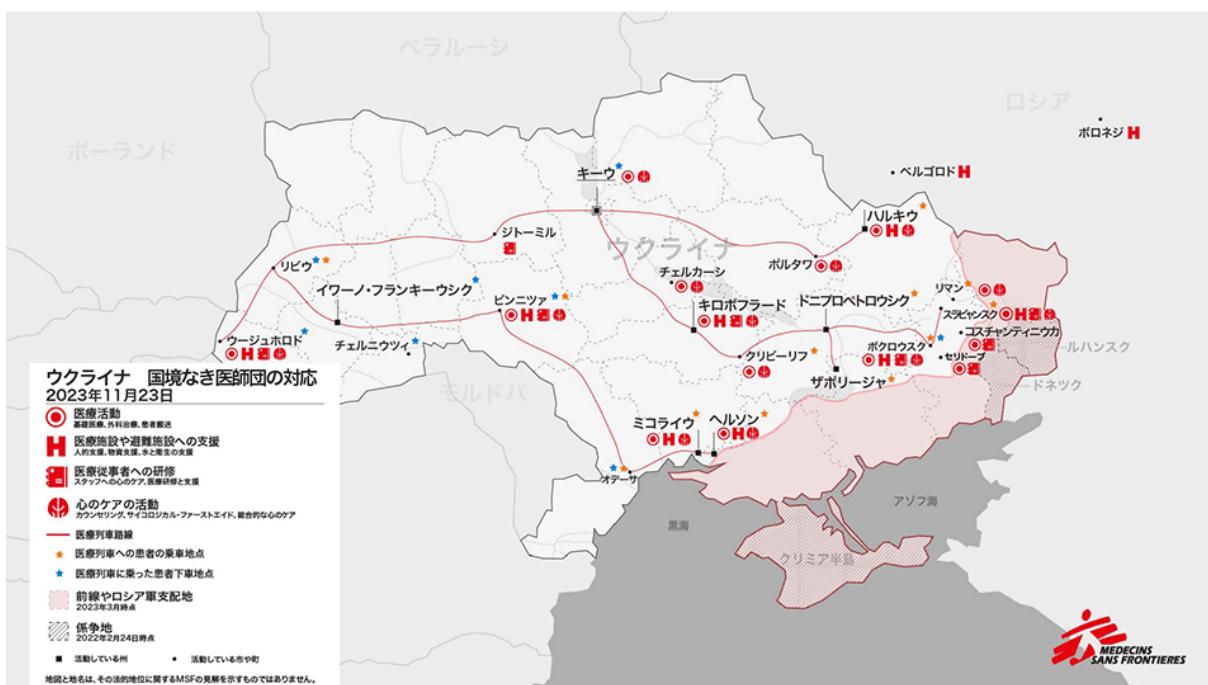
2023年、戦争が続く中でのMSFの活動

01.ウクライナ

主に南部と東部では、2022年から継続して、ウクライナの医療体制を支援。戦争によって生じた援助ニーズへの対応に努めた。

主な活動：

- 患者の搬送と紹介
- 移動診療による医療および心のケア
- 外科治療、救急治療、集中治療
- 理学療法
- 心的外傷後ストレス障害（PTSD）の治療



MSFはウクライナ全域で主要都市に拠点を置いて活動している。

■ ウクライナ東部・南部

医療列車と救急車による患者搬送と紹介

医療列車の運行地域：前線に近いウクライナ東部・南部から西部へ

救急車による搬送の地域：ドネツク州、ヘルソン州、ドニプロペトロウシク州、ザポリージャ州

東部と南部の前線付近では、戦闘によって数多くの医療ニーズに対応する必要があることから、医療体制の維持が非常に困難な状態にある。MSFは、前線に近いため多くの患者の対応でひっ迫している病院から、収容能力がより高く安全な地域にある別の病院へ患者を搬送することで医療体制を支援。また、重症患者の搬送が可能な15台の救急車と医療設備を備えた列車での搬送も行っている。戦況の変化に伴い、患者は東部にとどまるようになったため、列車を使った活動は少しずつ縮小している。

移動診療による医療および心のケア

活動地域：ドネツク州、ヘルソン州、ザポリージャ州、ミコライウ州、ポルタワ州、ハルキウ州

ウクライナ国内で避難生活を送る人びとや、前線の近くに住む人びとは、戦争により、糖尿病や高血圧などの持病の治療や、恐怖、孤立などのつらい経験をした後の心のケアを継続して行うことが困難になっている。MSFの心理療法士、医師、ヘルスプロモーターからなる移動診療チームは、東部の避難所や医療スタッフが特に少ない地域に住む患者や地域住民に対する診療や心のケアなどを行っている。ポルタワ州でのこれらの活動は2023年末で終了した。また、医療施設の再建や医療スタッフの研修を通じて、受け入れ体制の向上も支援している。

ドネツク、ヘルソン、ミコライウなど、戦闘の影響を大きく受けた州、特に前線やウクライナが奪還した地域の近くでは、MSFの移動診療を受ける患者のほとんどは高齢者で、家から出たがらないか、出られない。また、高血圧や糖尿病、心臓病、てんかんといった慢性疾患の有病率が高い。ヘルソン州、ドネツク州、ハルキウ州では、移動診療による結核やC型肝炎、HIV／エイズのスクリーニングも行っている。



ドネツク州で、移動診療を行うMSFの医療スタッフ=2023年8月 © Yuliia Trofimova/MSF

外科治療、救急治療、集中治療の提供

活動地域：ドネツク州、ヘルソン州・ヘルソン市

東部や南部の前線地域付近で、砲撃や爆弾、爆発時の破片による外傷の患者を診ている。地域の医療施設では、交通事故による負傷者や心臓発作、脳卒中など、ニーズの高い患者の治療を続いている。MSFは、ドネツク州の病院で救急部門を運営し、患者に外科治療を提供している。MSFの移動救急対応チームは、病院での救急・手術対応の受け入れ能力を高めると共に、病院スタッフへの研修も行い、多数の負傷者来院時には治療に加わる予備人員の役割も受け持っている。

入院患者の多くはひどい外傷を負っており、5人に1人が命に関わる重篤な状態にある。MSFは、医療体制、特に外傷センターの負担の軽減のため、患者の容体を評価して緊急性を判断しながら、状況に応じて患者の容体安定化や、院内の別の診療科への移送、保健省が運営する他の病院への移送を行っている。

理学療法

活動地域：ポルタワ州、ハルキウ州、ミコライウ州、ジトーミル州

戦争によって重傷を負い、適切かつ早期の術後治療が必要な人びとが大勢いる。MSFは、理学療法や術後ケア、さらには心のケアの分野での専門知識と研修を提供することで、ウクライナの医療体制を支援している。ウクライナでは2022年以前は、リハビリや心のケアはあまり普及していなかつたが、現在は術後ケアを必要とする戦闘負傷者の数は膨大である。MSFが診療している外傷患者は、適切なケアを受けなければ、長期的な医学的問題や後遺症が残る恐れがある。

MSFは、ミコライウ州の病院1カ所とハルキウ州の病院2カ所で、戦闘で負傷した患者のリハビリに携わるスタッフに対し、理学療法士としての座学と実地研修の両方を行っている。2023年末までは、ポルタワ州の2カ所の病院でも同様の活動を提供した。

ジトーミル州でも、早期リハビリ・プロジェクトの研修と寄贈を実施している。

■ ウクライナ中部

移動診療による医療および心のケア

活動地域：キロボフラー州

キロボフラー州では、2024年1月まで、国内避難民に移動診療による医療を提供した。また、心理療法士による心理教育やレクリエーション活動といった心のケアも行った。

理学療法

活動地域：キーウ市、ビンニツァ市、チェルカーシ州、クロピュニツキー州

MSFはチェルカーシ州の保健省の病院で、戦闘負傷者の早期リハビリ・プロジェクトとして、理学療法、心のケア、看護ケアを実施している。また、同病院に対して研修や技術支援も行っている。

2023年11月まで、ウクライナ内務省が運営するキーウの病院と、保健省が運営するビンニツァの病院でも、戦闘負傷者のためのリハビリ・プロジェクトを実施した。両病院で理学療法、カウンセリングなど心理社会的ケアを 提供した。これらの活動は12月にフランスの医療NGOメアド(Mehad)に引き継いだ。

キロボフラー州クロピュニツキーの病院では、理学療法士を対象に座学と実地研修を行った。同活動は2024年1月に終了した。



ビンニツァのMSFリハビリ・プロジェクトで患者の施術を行う理学療法士=2023年9月 © Verity Kowal/MSF

PTSDの治療

活動地域：ビンニツア

2023年、MSFはビンニツアで、戦争によるPTSDの症状を経験した人びとに対して、9月に開設した新しい特注設計のセンターで、専門的な心のケアの提供を開始した。MSFは個人と患者の支援ネットワークのメンバーの両方に心のケアのカウンセリングを提供するとともに、症状の軽減や悪化の防止、対処スキルの向上、対人関係の改善、PTSDによるストレスの影響の軽減に役立つテクニックも伝えている。

結核治療

活動地域：ジトーミル州

ジトーミルでは、5年間続けてきた結核支援プロジェクトを終了した。11月末に結核診断に使用していたラボを保健省に移譲した。

その他の活動

2023年の初めから、MSFは医薬品、医療消耗品、医療機器、衛生用品キット、毛布など、約600点（200万ユーロ以上）を寄贈した。また、ウクライナの9つの地域にまたがる96カ所の医療施設（基礎的な診療を提供する35カ所の施設と61カ所の専門医療施設）に寄贈を行った。

■ 数字で見る MSF の活動



2023年の支出 3130万ユーロ

■ 2024年の予定

2024年、MSFはビンニツアでPTSD患者の治療を続ける。ウクライナ東部では、ヘルソン市内の病院と外科スタッフの支援を続けるとともに、前線近くでの救急車による搬送や移動救急対応を継続する。また、チェルカーシ州の保健省の病院で早期リハビリ・プロジェクトを実施し、理学療法、心のケア、看護ケアによる戦闘で負傷した患者の支援を継続する予定だ。

活動予算 1220万ユーロ（予定）

02.近隣諸国における活動

2022年に引き続き、ウクライナから近隣諸国へ逃れた人びとに対する援助活動も行った。

■ ポーランド

ポーランドでは保健省と協力し、ウクライナにいたときにMSFによる支援を受けていた患者を含め、薬剤耐性結核の治療を提供している。

2023年の支出 119万ユーロ

■ ロシア

MSFは30年前からロシアで活動。サンクトペテルブルクとモスクワのパートナー組織と協力し、HIV／エイズやC型肝炎に感染したウクライナの人びとが治療を受け続けられるようにしている。

ウクライナでの戦争によるニーズに対応するため、ボロネジ、ベルゴロド、ロストフナドヌーの各地域のNGOと緊密な協力・提携関係を築いている。現地のソーシャルワーカー、医療スタッフ、心理療法士、法律カウンセラーらが、ウクライナからロシアに逃れてきた人びとが認可された診療所で医療を受け、その他の国の医療・社会サービスを利用できるようにしている。必要な場合には、医療費の不足分を補い、必要な薬代や診療費を支払っている。また必要に応じて、食料品、衛生用品キットなども提供している。

2023年8月より、パートナーNGOであるボロネジへの支援は終了し、ロストフ州にある一時宿泊センターを支援するNGOとの新たなパートナーシップを開始した。避難民の多くは何も持たない状態でセンターにやってくるため、私たちは必要な食料や衛生用品を提供している。医療や心のケアが必要な人びとは、パートナーNGOの医師による診療か心理療法士に相談している。

2023年の支出 126万ユーロ

※ロシアでの活動には「ウクライナ緊急募金」を充当していない。

2024年の予算 171万ユーロ（予定）

日本から拠出された支援金の使い道

紛争が激化した2022年以降、多くの日本の皆さまが、ウクライナ緊急募金・「緊急チーム」募金などを通じて私たちに思いを託してくださいました。改めて御礼を申し上げるとともに、皆さまの寄付で実現できた援助についてご報告します。

| | 送金額 | | 活動内容 |
|-------|-----------|----------|---|
| 2022年 | ウクライナ緊急募金 | 1億7540万円 | ・ 東部のドニプロやザポリージャでは、マリウポリをはじめとする激戦地から逃ってきた人びとに移動診療を提供した。一般診療のほか、慢性疾患の治療や処方薬の処方、重症患者の病院への搬送・紹介、心のケア、救援物資の提供などを行った。 |
| | 「緊急チーム」募金 | 1億4810万円 | |
| | 一般寄付 | 4880万円 | |
| | 計 | 3億7230万円 | ・ 戦闘地に近いポクロウスクやスラビヤンスクでは、前線の変化を注視しながら、住民が総合的な医療を受けられるよう、当局と連携して救護所を設置するなどして緊急対応力を高めた。また、戦争が続くと心理面への影響が重くなるため、前線付近で働く人びとを対象に心のケアを拡大した。 |
| 2023年 | 「緊急チーム」募金 | 1億610万円 | ・ 南部のミコライウ州やヘルソン州で、現地の医療従事者には心のケアの研修を、住民には心のケアを提供。また、医療施設が継続稼働できるように医療物資の提供などを行った。(5ページ参照) |
| | 一般寄付 | 1870万円 | |
| | 計 | 1億2480万円 | ・ 首都キーウやビンニツアにて、ウクライナ保健省・内務省と連携して戦闘負傷者のリハビリや心のケアを実施した。(8ページ参照) |

※2023年の活動資金配分については、最終調整中のため、変更となる可能性があります。